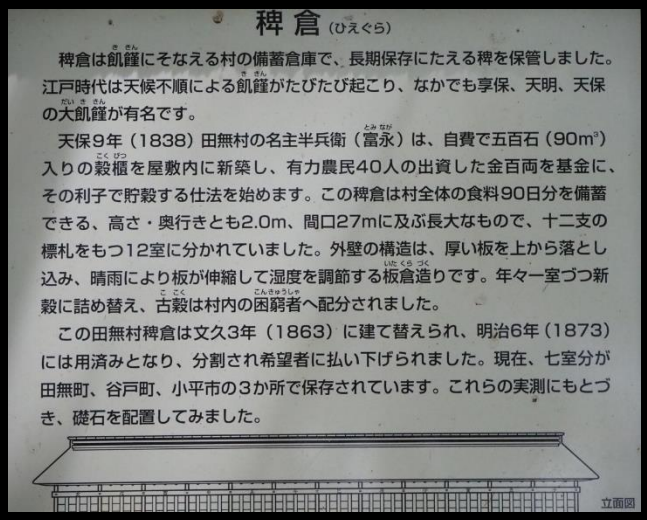
第13回 いこいの森公園 昼食会

2023. 8. 27 (日)



稗倉（ひえぐら）

稗倉は飢饉にそなえる村の備蓄倉庫で、長期保存にたえる稗を保管しました。江戸時代は天候不順による飢饉がたびたび起こり、なかでも享保、天明、天保の大飢饉が有名です。

天保9年（1838）田無村の名主半兵衛（富永）は、自費で五百石（90m³）入りの穀櫃を屋敷内に新築し、有力農民40人の出資した金百両を基金に、その利子で貯穀する仕法を始めます。この稗倉は村全体の食料90日分を備蓄できる、高さ・奥行きとも2.0m、間口27mに及ぶ長大なもので、十二支の標札をもつ12室に分かれていました。外壁の構造は、厚い板を上から落とし込み、晴雨により板が伸縮して湿度を調節する板倉造りです。年々一室づつ新穀に詰め替え、古穀は村内の困窮者へ配分されました。

この田無村稗倉は文久3年（1863）に建て替えられ、明治6年（1873）には用済みとなり、分割され希望者に払い下げられました。現在、七室分が田無町、谷戸町、小平市の3か所で保存されています。これらの実測にもとづき、礎石を配置してみました。

立面図

今日も暑い一日、台風が近づいているせいかモクモクと入道雲が湧いています。突然ザッと来そうな空模様でしたが、水井、久保田、小垣原、伊藤、小林 太、濱田の６名で昼食会を楽しみました。それぞれ持参したビールやお弁当を食べながら、いろいろな話で盛り上がりました。今日は降られなかったのが一番の幸いでした！

次回は9月24日（日）です。気楽な集まりですので、どうぞプラッと顔を出して下さい！　でも、ご自分のお弁当と飲み物は忘れずにネ！